

浦賀文化

平成17(2005)年9月1日

第3号

Email: uragabunka@yahoo.co.jp
ホームページ開設準備中

編集・発行：横須賀市浦賀文化センター 〒239-0822 横須賀市浦賀町7-1 電話&ファクス 046-842-4121

筑波大学院生

当館を拠点に調研活動

生活の中に息づく歴史を体験

浦賀文化センターは、去る六月下旬、筑波大学大学院人文社会科学部歴史地理学研究室の石井英也教授、小口千明助教の依頼を受け、同大学院の院生調査研究グループを受け入れた。同グループは当センターを拠点にして、五日間、浦賀のフィールドワークを実施。郷土史家の山本昭一氏(当センター・スーパーバイザー)が当地の概況、研究状況についてレクチャーした。以下、同グループの吉村雅美さん、市村真実さんから寄せられた浦賀の印象を紹介する。



吉村雅美さん



市村真実さん

去る六月下旬、私たちは大学院の授業で浦賀を初めて訪れた。探訪前には、浦賀といえは「干鯛問屋の町」、「浦賀ドックの町」というイメージがあった。

実際に浦賀を肌で感じてみると、現在も生活の中に脈々と歴史が息づいていることに気づいた。例えば、洞井戸で

は稲荷を祀り、今でも井戸が使われている。田中町や紺屋町の百年以上も同じ場所にあるお店の軒先には、明治期の電話番号が掲げられている。お店に入ると、創業立時時から使われている立派な看板や古い写真などがあり、歴史を感じさせる。かつて問屋を営まっていたというお店のご当主が語られる町の歴史について熱いお話には、すっかり引き込まれてしまった。

浦賀

歴史を享受できる町 文化センターは人員を充実



西村健二さん

四月一日から公民館事務員として勤務してあります。かなり趣味は広いのですが(一番はお酒です)、その中に歴史は含まれていません。多分、学生時代にいた。いろんな人が行き交うので、店の中に椅子に座って通りを眺めていると飽きることがなかったという。

「給料日になるとドック周辺には露店がたくさん出ていましたよ」と奥さん。

〈宮下〉は、叶神社の祭礼のときが一年のなかでもっとも忙しい。祭礼の雑用を一手に引き受けているので、毎年九月のその時期には町内総出で準備にとりかかる。

最近、浦賀は何かとテレビ等で取り上げられている。この取材の最中にも某局がやってきた。(中井・ごとう)

ドック前の店にあふれる仕事帰りの立ち飲み客、給料日の夜の賑わい……。ドックは閉鎖された今もなお、深く浦賀の人々の心に刻み込まれている。

このように、文字資料のみからは知ることはできない、生き生きとした生活に触れることは貴重な体験であった。最も印象に残ったのは、浦賀の町の(以下、二面に続く)

町内の歴史

西浦賀一・二丁目(宮下・甲)

「語る人」鹿目郎さん(鹿目茶舗)

梅雨の一刻の合間をぬって話しを伺うために四代目のもとを訪ねた。「有力者に勧められて、茶舗を開店した」と創業時の経緯を語る。何でも会津藩士からの転身とか。さらに浦賀行幸の時、天皇にお茶を出したのは、「成績・行儀も良く、何より物怖じしない二代目の性格」のために選ばれたとのこと……。

千葉からも浦賀に買い物客が!



新茶まつり。静岡からお手伝いさんを迎えて(昭和40年ごろ)

「給料日になるとドック周辺には露店がたくさん出ていましたよ」と奥さん。

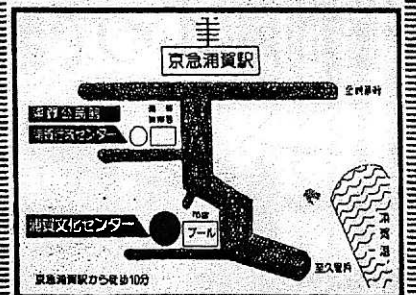
〈宮下〉は、叶神社の祭礼のときが一年のなかでもっとも忙しい。祭礼の雑用を一手に引き受けているので、毎年九月のその時期には町内総出で準備にとりかかる。

最近、浦賀は何かとテレビ等で取り上げられている。この取材の最中にも某局がやってきた。(中井・ごとう)

浦賀文化センターは本年度から人員も充実し、市民だけでなく、日本、いや世界に浦賀文化を発信する拠点として活躍が期待されます。公民館も文化講座には力を入れており、この秋も英文学「嵐が丘」や「水彩画入門」講座を予定しておりますので、公民館ニュースをご覧になり、是非応募して下さい。恒例の、丹

郷土資料館 浦賀文化センター

(浦賀駅から浦賀通りを徒歩10分)



所在地：横須賀市浦賀町7-1

電話：046-842-4121
ファクス：046-842-4121

東西風

精進めた作品の展示と日頃の練習の成果を発表する「友の会・文化祭」(十一月十七・二十日)、ステージで晴れ姿を見せる「ジョイント・コンサート」(十二月三日)にも是非おいで下さい。

文化センター二階の三つの学習室は公民館の一部として市民の皆様のご利用をお待ちしております(お申込みは公民館へお願いします)。近頃冷酒ばかり(飲屋さんでも、吟醸酒やら山廃仕込み等銘柄は豊富、一方お燗のお酒は多くても二種類しか置いてない)ですが、夏でも私は熱燗。夏の肴は冷奴が一番。若荷、大葉、葱、胡瓜、トマト、玉葱、梅肉、削り節、じゃこ、刻み海苔、すり胡麻など、薬味を組合せて楽しんでいきます。私事ですが、薬味に使う(たて)を探しております。夢が庭にある方はぜひご連絡下さい。(浦賀公民館主任社会教育指導員)

ワシントン湖畔にトマック河川に日本の桜を植樹したことで知られるE・R・シドモア女史は、明治十七年から三十五年までの十八年間断続的に日本を訪れ、名著『シドモア日本紀行』を著した。その中に浦賀の水船に言及したくだけりがあり、興味深い。当時の老舗が三〇年以上も作りつづけてきた水船は、胃弱や肺病にも薬効があるとして、日本在住の外国人内科医からも珍重された。この薬用水船は日本のごとで製造されても、浦賀特産として市場に供給された、とシドモア女史は指摘する。また、水船をこねてペースト状にし、それを吹いてつくった船の花は天皇家の食卓にも供され、あらゆるご馳走を華やかに飾り立てたと記している。浦賀銘菓の復活を願う。(中村)

大波院生
渡辺 大

当館を拠点に調研活動 生活の中に息づく歴史を体験

(二面からの続き) 歴史や文化を誇りにされていることである。お祭りは町を挙げて盛大に行われると伺った。また、地域の方の郷土誌編纂会議での熱い議論からも、郷土に対する思い入れが伝わってきた。

そんな浦賀の人々の熱き思いを感じ取りつつ、最終日。まだまだ物足りない思いを残して登った愛宕山か

案内

●中島三郎助常設展示

ペリー来航時に応接掛として活躍した中島三郎助の浦賀与力時代、幕府軍として新政府軍と戦い戦死した函館・五稜郭時代の事跡を常設展示しています。あわせて、中島が幕命で建造した洋式帆船「鳳凰丸」の模

●浦賀シネサロン

九月十三日(火)十九時から、浦賀公民館会議室で実施します。今回は「近代百年の歩み 大正・昭和」を上映します。

●三展示

「あるいて巡る浦賀のお稲荷さん」、「あるいて巡る東浦賀再発見」、「会津藩と浦賀」は、引き続き当館一階で展示中です。

笑話一題

七月から隣にある七丁目目のプールが始まり、子どもたちの賑やかな声が毎日聞こえてきます。そんなある日、小学四年生の男子生徒が数名で、ビデオを片手に「水」のことを調べに来館しました。ここ洞井戸には地名のとおり、まだ井戸がたたくさん残って

●浦賀の昔の写真

文化センター、公民館浦賀ドック病院などの建物ができる前の写真をお持ちの方は、ご一報ください。

情報ください

●浦賀の昔の写真

文化センター、公民館浦賀ドック病院などの建物ができる前の写真をお持ちの方は、ご一報ください。

●大衆浴場の資料・写真

江戸、明治、大正、昭和における浦賀の大衆浴場に関する写真や資料を探しています。ご存知の方は、浦賀文化センターまでお知らせください。

収蔵品リスト

●西浦賀(宮下・船番所)の町並みの模型

絵地図をもとに再現した西浦賀の町並みは、当時の繁栄を感ずることができ、きの屋根に見ることができ、ます。奉行所・船番所と同じ六十分の一縮尺にしてあります。

●浦賀奉行所模型

浦賀奉行所の精密複製縮尺六十分の一を収蔵・展示しています。

募集

投稿を歓迎します。字数は四百〜八百字を目安に。優れた原稿は本紙に掲載します。編集部で趣旨を要えずにリライトすることがあります。

●浦賀志録 船隻会

九月十六日(金)午後一時三十分より。興味のある方はぜひご参加ください。



書評

江戸幕府がオランダに要請して長崎に設けた、海軍伝習所の第二次教育班長による回想録である。

歴史語り座・浦賀

郷土史家 山本詔一



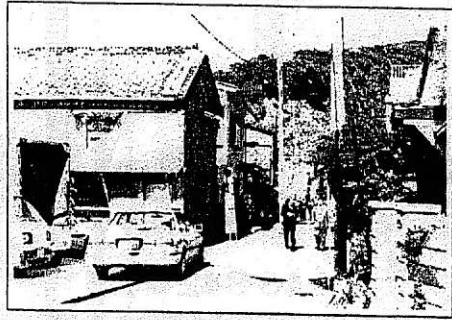
江戸時代の東浦賀の人々の生活と文化を支え、さらには日本経済の発達にも大きな足跡を残した干鰯(ほしか)問屋が、いつ出来たのかは正確にはわかっていない。

関西からの出店者も多かったです

ところが、いざ世話をし買って干鰯荷物を運ぶことができて、この代金の回収に時間と諸雑費がかかり、不便なことから、生産地の房総から浦賀で干鰯荷物を引き受けて代金を支払い、関西問屋へ売りさばいて買いたいという要望がでた。これに答えたのが「東浦賀干鰯問屋」の始まりであり、その時期は寛永年間(一六二四〜一六四三)の半ば頃と思われる。

干鰯問屋はいつできたのか

この干鰯に東浦賀では当初十五軒の間屋が関わっていたと思われ、兵庫屋や和泉屋、伊勢屋などの屋号から考えると、浦賀の地付きの漁業関係者はかりでなく、関西からの出店者も多かったことが想像できる。



江戸の生活・文化の香りを色濃く残す東浦賀の干鰯蔵